

研究成果のインパクトを最大化する国際研究広報「インパクトサイエンス」

カクタス・コミュニケーションズ株式会社

文部科学省が実施する「研究支援サービス・パートナーシップ認定制度」は、研究者の研究環境を向上させ、我が国における科学技術の推進及びイノベーションの創出を加速するサービスを認定する制度です。連載の第二回は、令和元年度に認定した八つのサービスのうち、カクタス・コミュニケーションズ株式会社が実施する「国際的な研究広報サービスImpact Science」（インパクトサイエンス）について、同社に寄稿いただきました。

文部科学省 科学技術・学術政策局 企画評価課

インパクトサイエンスとは

インパクトサイエンスは、研究成果のインパクトを最大化するために、新しい科学的発見や知識をより多くの方々に伝えることで研究者を支援するサービスです。英文プレスリリースの執筆・配信や、英語のインフォグラフィックス・研究動画の制作といった国際研究広報業務の代行を通して、研究者の方が教育・研究に専念できる環境を提供することを目指しています。

二〇一六年より研究者支援サービスとして開始、二〇一九年七月に部門名をインパクトサイエンスに変更し、既に三六の大学・研究

所に対し七一のサービスを提供しました。北海道大学、筑波大学、東京大学、東京工業大学、東京都立大学、岐阜大学、名古屋大学、名古屋工業大学、京都大学、大阪大学、岡山大学、九州大学、早稲田大学、東京理科大学、東海大学、東京女子医科大学、藤田医科大学、立命館大学他にご利用いただいています。初年次から多くの大学・研究所にご利用いただいた背景には、私たちの一九年に渡る研究者支援の歴史があります。カクタスの「Eureka」は一九一カ国の四五・七万人に及ぶ研究者の一二七万稿以上の論文を英文校正・翻訳してきました。また、二〇一三年に始動した「Science Talks」を皮切りに、研

究に関わる全ての人が立場や所属先に関係なく、日本の研究と一緒に盛り上げていく活動を促進してきました。Science Talksでは第五期科学技術基本計画を取り上げ、現場目線で科学技術について議論を重ねました。これらの活動を通じて研究者の方々から、研究動画や英語プレスリリースについてのご相談をいただくようになりました。

サービスのご紹介

インパクトサイエンスの提供するサービスの一つの柱は英文プレスリリースの執筆と配信です。執筆は、本社の博士・修士号を持ち、学術誌査読・編集経験のある一〇〇名以上のライターと、二五〇〇名以上のフリーランスのライターにより行われます。ライターは皆英語ネイティブのため英語話者に伝わりやすい表現を使用して国際発信することが可能となります。

また、日本においては日本語のプレスリリースを英訳している大学・研究所が多いですが、インパクトサイエンスでは、英語の論文を元

に直接英語のリリースを作成します。英語の論文と質問票（対象者はどの層か。リリースを出す目的は何か、などの質問から構成されます）をお預かりして、英文リリース初稿を納品するまでに要するのは七営業日程度です。その後一〜二回の校正を経て完成となります。当サービスをご利用いただいている東京工業大学研究・産学連携本部 国際研究広報UR A長谷川一英様は「難しい研究内容でも、わかりやすく正確なプレスリリースを迅速に作成いただいている」と評価してくださっています。

インパクトサイエンスでは、科学的正確性を保ちつつも平易な言葉を使用することで科

学技術等に関する知識の「翻訳」を行い、科学に興味の薄い人々にも確実に研究成果を届けることに留意してリリースを作成しています。日本においてはプレスリリースを元に記者の方が記事化するのが一般的ですが、英文リリースにおいてはそのままウェブメディアを始めとする様々なメディアに転載されるのが一般的なので、読者の方に直接届くことを想定した表現に徹しています。

そして、配信に関してはEurekaAlertを始めたとする媒体を介して広く発信したり、本社のメディア責任者が研究分野ごとの雑誌・新聞等に対して直接的に働きかけたりして、一つでも多くのメディアへの露出に繋がっています。尚、英文プレス

リリース執筆は一本七万五千円（年間二〇本以上の場合五万円）、配信は一本六万円です。もう一つのサービスの柱は英語によるアニメーション研究動画の制作です。ネイティブのサイエンスライターとデザイナーが協働で制作にあたり、視覚的にも分かりやすく研究内容を伝えます。先に述べたプレスリリースは、紙ではなくデ

今後の展望

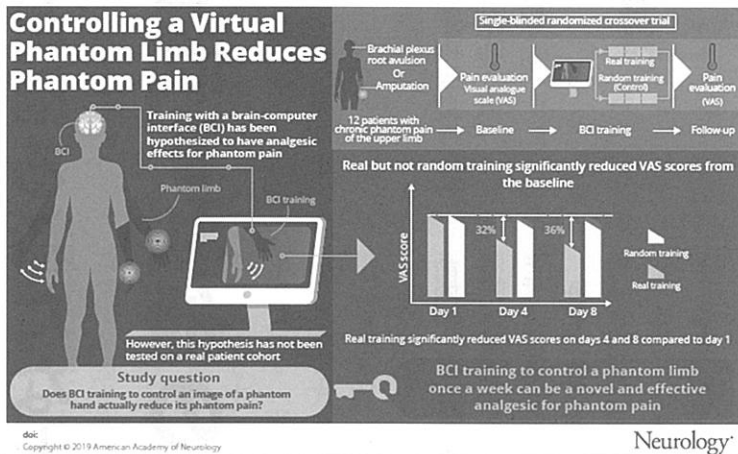
私たちは、研究広報の代行を通して研究者の方が教育・研究に専念できる環境を提供することを目指し、このようなサービスを展開しています。日本の科学技術振興のために、民間企業が大学・研究所と協働できることは無限にあるはずですが、研究成果を広く世界に発信し、アカデミア内だけで共有されていた知見を国内外の研究者や政府、企業、一般市民等の幅広いステークホルダーと共有し、学際的なイノベーションの創出に貢献していきたいと強く願っています。

執筆責任者: Shivane Shah
Loyola大学 (シカゴ) 免疫学博士。Editor in Life Sciences (ELS) 等の資格有。17年に渡り中国・韓国・日本等の論文を元にプレスリリースを多数執筆。

メディア責任者: Harini Calamur
ロンドン大学シティ校修士。大学教員職の傍ら、メディアに24年携わる。教育分野におけるデジタル戦略を得意とする。

デザイン責任者: Prasad Balgi
ムンバイ大学卒。12年に渡り Brill, Royal Society of Chemistry, World Data System 等の動画のディレクションを行う。

図表1 インパクトサイエンスを支える責任者のご紹介



図表2 インパクトサイエンスで制作したインフォグラフィックの例